

イカナゴ情報 No.2 (2026年6月)



道総研

2026年(令和8年) 7月1日

道総研稚内水産試験場調査研究部(担当:澤村) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類¹⁾の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

漁獲物調査: 2026年6月は体長18cm前後が主体

6月稚内港水揚げの沖合底びき網標本の体長のモード(最も出現が多かった体長)は18cmで20cm以上の個体は少なく、全体的な魚体サイズは19cmにモードがあり20cm以上の個体も多かった2025年より小型となっていました(図1)。調査船・北洋丸により5月に実施したトロール調査での漁獲物のモードは19cmにありました(イカナゴ情報2026年No.1)。

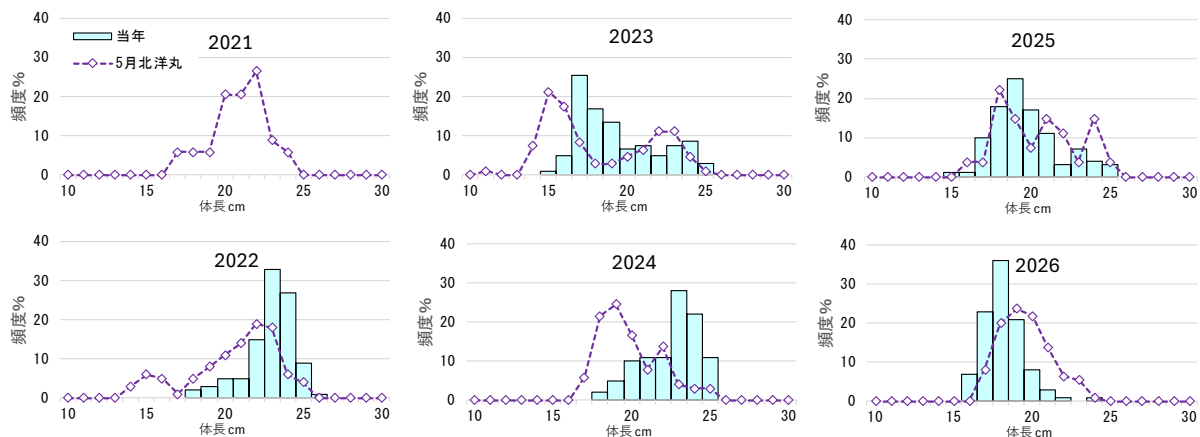


図1. 稚内港水揚げの6月沖底漁獲イカナゴ類と、過去5年平均および同年5月北洋丸調査での漁獲物の体長組成との比較。2021年沖底は欠測

海洋観測: 沿岸からオッター漁場・かけまわし漁場にかけての水温は昨年より低い

宗谷海峡東方海域において6月16~18日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を実施しました(図2)。観測ラインの水温断面図(図3)では水温は全体的に前年より低く、オッタートロールの主漁場となるラインAのIS02からIS04(水深50~80m)にかけての海域、およびかけまわしの主漁場にあたるラインBのIS11からIS09(水深40~60m)の海域でも、ともに2025年に比べ水温の低い場所が多くなっていました。

¹⁾ イカナゴ類にはイカナゴ、オオイカナゴ、キタイカナゴの3種が含まれる(Orr et al., 2015)

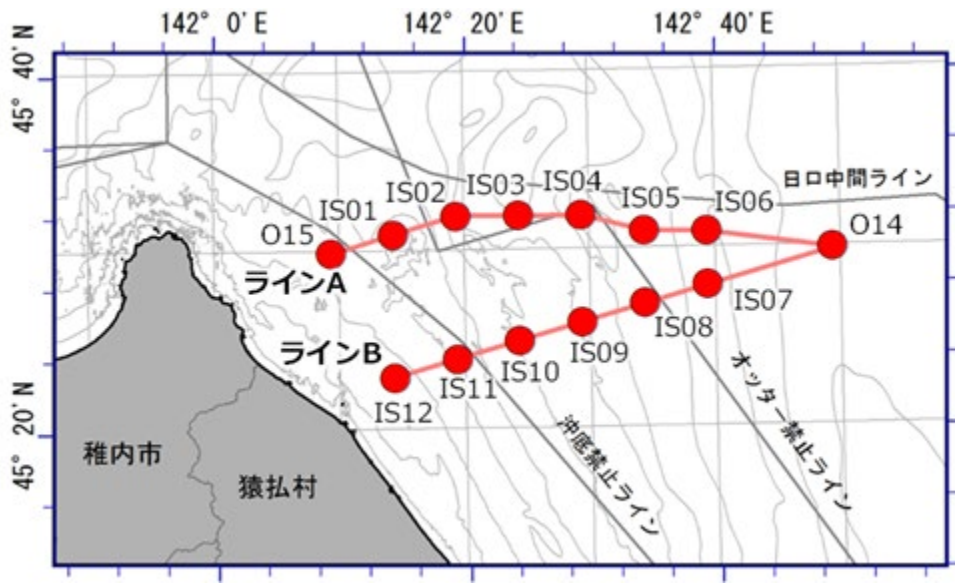


図 2. 海洋観測・魚探観測ラインの位置

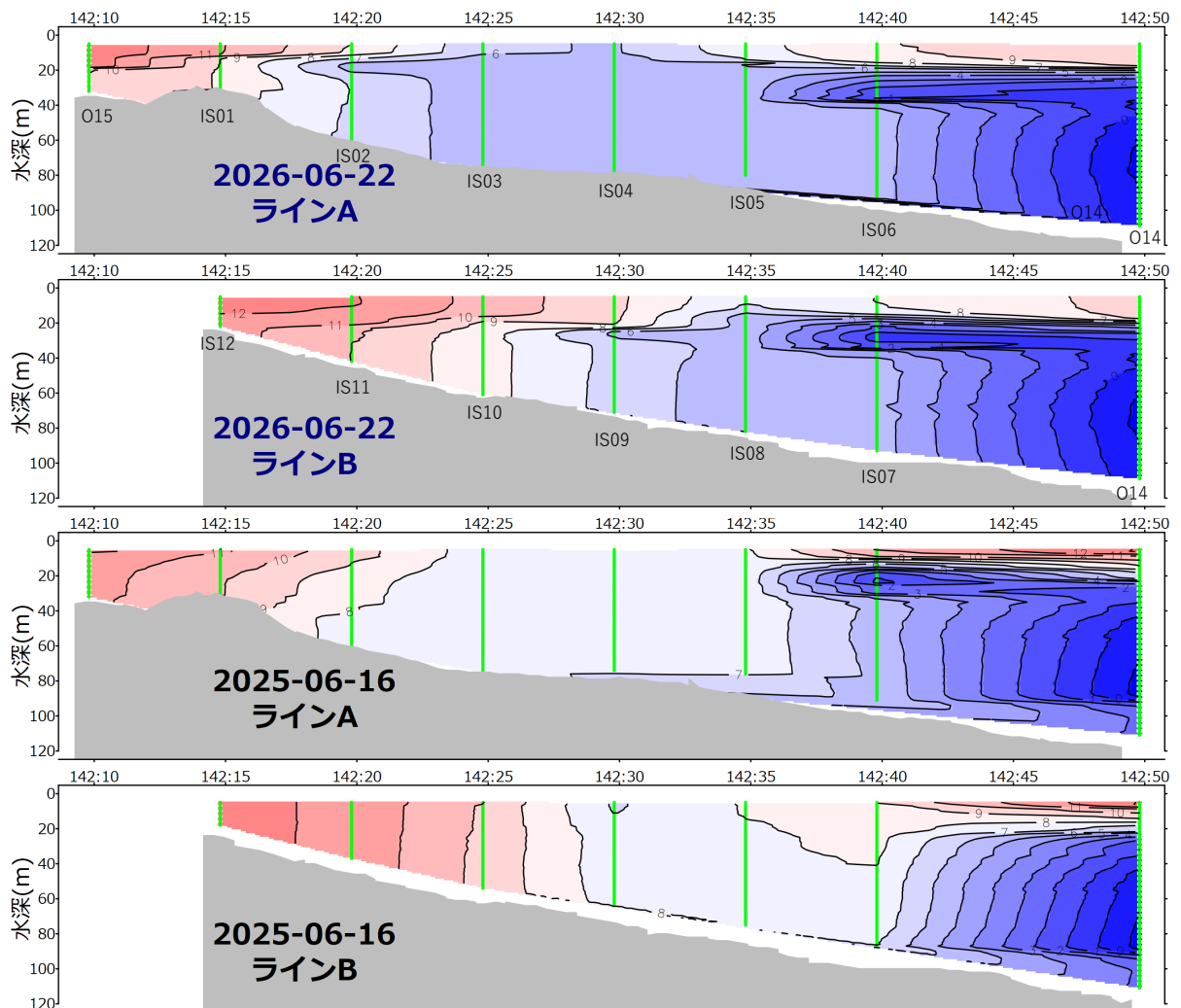


図 3. 2026 年（上）および 2025 年（下）の各調査ラインの水温鉛直分布

魚探観測：イカナゴ類と見られる魚群の反応は非常に少ない(図 4)

海洋観測と同時にライン A およびライン B で計量魚群探知機による観測を実施しました (図 4)。ライン A では IS01・S02 定点間の水深 50 m 以浅でイカナゴ類の可能性がある弱い反応が見られたものの、全体としてイカナゴ類と思われる反応はほとんどありませんでした。ライン B でも同様に、イカナゴ類と思われる反応はほぼ見られませんでした。以上の結果から、今回の調査海域におけるイカナゴ類の分布密度は低かったと考えられます。

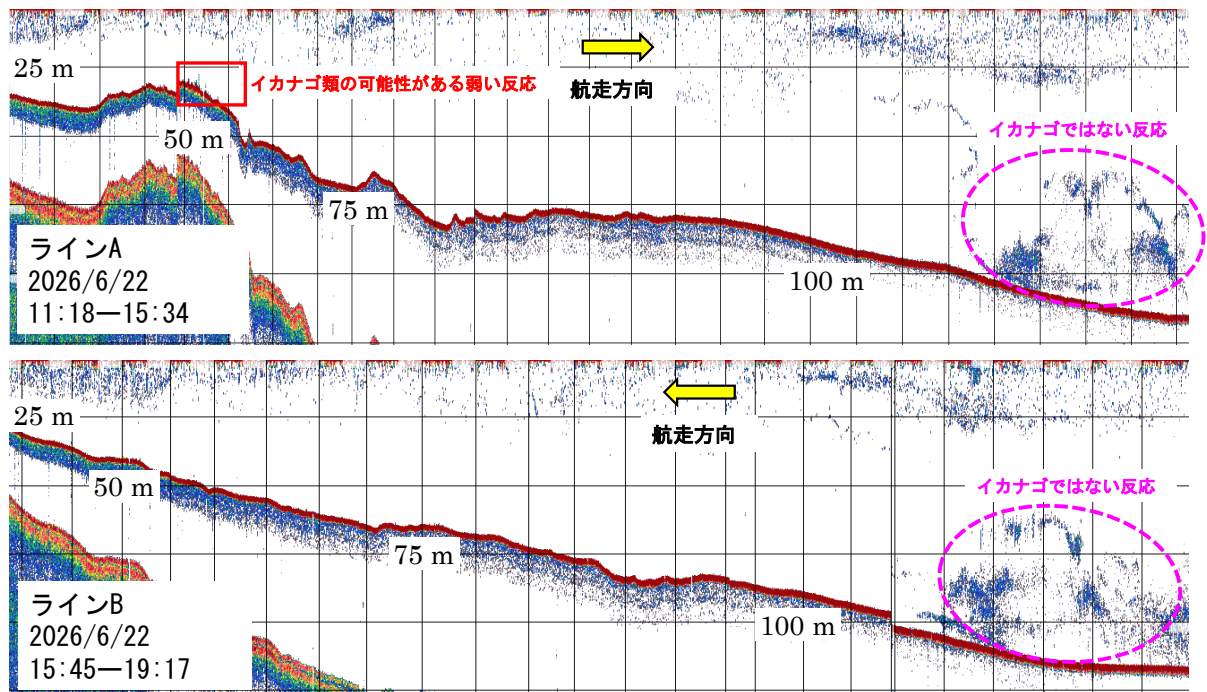


図 4. 観測ライン A・B における計量魚群探知機の反応 (120kHz)。